



平成24年 3月15日



まつかわ百景 ⑤9

「松川町交番」

七椏神社北側の国道沿いに統合移転し、3月2日に開署式を迎えた松川町交番。外壁があたたかい色調で親しみやすい印象を受ける。

8面	7面	6面	5面	4面	3面	2面
視点・声・ペンペン草	俳句・短歌	ひと・こどもの詩	スポーツ・情報	青年の家だより	みんなで仲良く	介護シリーズ⑥
					本館総括	地区協総括

阪神間では、大きな災害等はないと言われていたものの、何の準備もなく誰もが無防備だったと思います。

あの日の朝、体が浮いて目が覚めました。ドンツと落ちた瞬間、起き上がろうとした瞬間、大きく速い横揺れでひれ伏すようにベッドに押し付けられ、電気も消えた暗闇の中、子ども達の上にタンスが倒れていくのがわかりました。

わかっていても何も出来ませんでした。揺れが収まって、子どもを助け出し、それから…必死ではつきり憶えています。何が起こったのかこれが地震だという事もこの時点では、はっきりわかりませんでした。

上の子は、割れたガラスの中で少し怪我をしてしまいました。先に落ちたテレビが隙間を作ってくれて助かりました。下の子は、タンスが飾り棚に引っかかって倒れていたの、その隙間で引き

主張

阪神大震災の経験

出し押されながらも助かりました。お蔭様でした。その後、隣の部屋に行こうとすると戸が開きません。家中の部屋の全ての物が、倒れ飛んでいてぐちゃぐちゃの状態でした。その中から懐中電灯を探して子どもに持たせ、その時一番安全だと思った階段の踊り場において、車にラジオを聞きに行きました。でもその時点ではまだ「大きな地震が起こったもようです」との事だったように記憶しています。その後、夕方には電気がとおり、一台残ったテレビで地震の様子を知りました。水は2・3日で出ましたが、ガスは3ヶ月以上待ちました。近くのスーパー・ガソリンスタンドは1ヶ月以上開きませんでした。それから地震が来る前にゴッツという地響きのような音が、耳についてはなれませんが、この音で、地震の来るのがわかりますが、恐怖も一緒につれてきます。

北村和彦(城)

た。それから地震が来る前にゴッツという地響きのような音が、耳についてはなれませんが、この音で、地震の来るのがわかりますが、恐怖も一緒につれてきます。

生 田

支えられて成功した 二大行事

生田地区協議会主事

下平 正明

生田地区協議会の行事を振り返ってみると、町民運動会・芸能文化祭になります。昨年雨で中止だった運動会も開催することができました。体育の日ではなく、前日の日曜日してみようと言うことで今年やることになりました。日曜日ということもあり、2つの地区でお祭りとなる祭りの始まる前に、終らなければと少しあせり気味で始めましたが、スムーズに終えることができました。

もう一つの行事は、2月にある芸能文化祭ですが、冬ともあって、天候が心配でしたが、とても良い天気に恵まれ開催することができました。今年、公民館でも、36災害の写真を展示し災害時の生田と今を比較した写真と他にも多くの作品も展示をしていただきました。演芸も盛り上がり、人員集めに苦労はありましたが、役員の皆さんと、それぞれの立場で支援を下さった皆様に支えられ一年間終わることができました。



ありがとうございました。

上片桐

盛り上がった 様々な行事

上片桐地区協議会主事

森岡 康男

5月の花いっぱい運動から事業が始まりました。苗植え当日は、五月晴れの下、多くの皆様方にご参加頂き、夏にはとても色鮮やかな花を咲かすことができました。

大きな行事の一つ、フェスタぎおんでは、商工会上片桐

支会、上片桐商栄会の皆様との共催により多くの皆様方においでいただき、ゲーム・屋台・ステージ等非常に大きな盛り上がりの中開催できました。

運動会においては、上片桐全分館が参加のもと各種競技が、にぎやかな声援や笑い声の中開催されました。

また11月の文化展においては、餃子試食、手打ちそば試食、白バイ試乗や演芸祭など

に多くの皆様にご参加下さいました。

この他にも絵手紙講座、夏季・冬季スポーツ大会、歴史めぐり、ファミリー登山等多様な行事ではありましたが、無事終了することが出来ました。

微力ではありましたが、地区館、分館の役員の皆様そして地区の皆様方の温かいご協力がよりこの一年間の公民館活動が出来ましたことに心より感謝申し上げます。

つながりのある公民館へ

平成23年度地区協議会総括

大 島

町民運動会に 重点をおいて

大島地区協議会主事

小木曾 剛

大島地区協議会では毎年2つの事業を行っていました。今年度は一つの事業にしぼって活動しました。毎年、体育の日に行われる町民運動会。唯一、4つの地区が集う最大のイベントの町民運動会を、みんなで盛り上げようと役員一同取り組みました。今までの反省を生かし、競技内容の



見直し、プログラムの見直し、どうしたら町民が大勢参加してもらえるかを、何度も会議

や打ち合わせを繰り返し行いました。当日はおかげさまで、晴天に恵まれ、大勢の方に参加していただき、たいへん盛り上がりしました。新競技のキャタピラーレースは、キャタピラーが壊れるんじゃないか、はらはらドキドキしながら観ていましたが、無事終わってホッとしています。

町民運動会についてはいろいろ意見があります。参加者の減少、競技内容のマンネリ化など。大島地区協議会でも毎年悩みますが、知恵を出し



楽しい運動会

合い、みんなで協力し合いこれからも続けてもらいたいと思います。

最後に、運動会の準備、運営にあたり、それぞれの立場でご協力いただきました皆様方に心よりお礼申し上げます。

平成23年度 松川町公民館 本館専門部総括

若者プロジェクトに 取り組んで

本館社会部長 大場 将博

本年度本館社会部では、「若者も集まる公民館」新しい一歩を始めよう」をテーマに掲げ一年間取り組んでまいりました。

音楽祭ではオープニングやエンディングに全員で合唱をしたり、中学生、高校生、大人の団体とで合同演奏をして頂いたり、町内各種団体みんなで世代間のつながりをつくれた音楽祭となりました。

人形劇、映画会では例年どおり、多くの子ども、お父さん、お母さんに参加して頂き、家庭や地域への話題作りができたのではないかと思います。

そして今年度新たに初めた若者プロジェクトでは、「もつと若い人達に公民館を知ってもらいたい、身近な存在に感じてほしい」という観点から、成人式実行委員と過去の成人式の写真を展示し、交流を深めました。また、松川高校と交流をはかり、色々な場面で連携して、公民館活動を身近に感じて

らえる様に考えております。(館報第579号(24年1月号)で取り組みを詳しく紹介しています。)

あいさつ運動も昨年同様地区公民館・役場青年部・本館専門部の皆さんの協力を頂き行いました。人と人とのつながりの希薄化の問題を乗り越えるため、今後も活動を継続していく所存です。

公民館活動は様々な立場の方々が集まる絶好の機会であり、住みよい環境づくりのきっかけとなるように、今後も充実した活動を行っていきたいと思います。

軽スポーツの 普及をめざして

体育部長 宮脇 俊典

今年度の本館体育部の活動に住民の皆さんのご協力をいただきありがとうございます。事業内容としては、2回のスポーツフェスティバル、上片桐地区館との共催のファミリー登山。トランポリン教室、駅伝大会の実施となりました。駅伝大会では、あいにくの天候の中、多くの方のご協力により無事行う事が出来ました。

ありがとうございます。今年度も、軽スポーツの普及と共に、充実した活動が出来るよう、体育部一同さらなる努力をしていきたいと思っております。

自信を持つて 作っています

編集部長 松下 佳史

「公民館報とは何か？」毎月発行される館報の作成に追われる中で考える事が無かつたのですが、今年度は公民館研究集会を通じて活動を振り返る機会があり、部員の意識が高まったのではないかと思います。

さて、館報は公民館の活動を記録した記事が多いかと思えます。毎年同じ行事を伝えているのは、マンネリ化という意見もあります。記事を読んでも季節を感じてもらったり次は参加してみたいと思ったりと、継続することのよさについてでも考えることができました。

今後、記録性を重視した記事の他にも、2・3面の特集にて旬な話題や活動を紹介します。皆さんにもっと親しまれる館報になればと思います。

これからも、紙面ならではの温かい館報を作っていきますので宜しくお願いします。

まつかわ大学 第4講座 2月25日(土)

体当たりの愛情で接する 「人として、親として、子として」

■講師 廣中邦充氏



講師の廣中邦充氏。スリッパをぬいでます。

ながら受講者席に走り寄り握手、握手、握手、「お元気そうで何よりです」と握手、握手、握手のあらし…。あつけにとられているうちに、ふと気付けばスリッパを脱いで白の足袋ははだしに。この方が動きやすいんだ、と納得。

廣中邦充氏は現在、様々な

「今度の講師の先生は動きが激しいようだから…」
少しの予備知識では予想できない廣中邦充氏の動き。
岡崎市の西居院の住職、廣中邦充氏はマイクを持つと「皆さんこんにちは!!」と挨拶をし



みんなと一緒にエールを送りました

こそ地域の力。隣近所の力が大切だとおっしゃいます。多くの人々との出会いと触れ合い、それこそが一番に求められていることだとも。決して一人じゃない！廣中邦充氏のことには強いパワーがあり心の中が熱いエネルギーで満たされたようでした。講演の最後は席の上に立った廣中邦充氏に合せて全員でエールを。力強い拳が突き上げられ、明日からも頑張ろうと気が満ちた講座でした。

シリーズ⑥

高齢者介護を考える

—災害時 救助するには—

東日本大震災から学ぶ



昨年3月11日の東日本大震災から早くも1年が過ぎました。県内でも栄村をはじめ地震が多発し全国でも災害の多い1年でした。

災害時、高齢者の方や障がい者の方を救助するためには、日頃私たちがどのように取り組んでいけばよいのでしょうか。

地域包括支援センターの大澤さんにご協力いただき、災害時の対応について考えます。

被災地を訪問

大澤さんは3月に被災地の陸前高田市を訪問されました。避難所や仮設住宅で生活し、外に出なくなる高齢者が増え体力、精神的に弱ってきている方が多くなっているそうです。

サロンなどで集まって話をしたり、山つけの仮設住宅では野鳥がくるのを見つけ巣箱を作るなどやすらぎを求めている人たちもいるそうで人とのつながりは大切だと感じました。また少しでも畑を作ったり、布ぞうりなど小物を作ったりして生きがいを見つけて楽しんでる方もいらっしや

るそうです。

この経験から、大澤さんは実際に訪問し、声を聞き集約して本来に必要なことをしていきたくて話してくれました。

高齢者障がい者との関わり

災害時に急に高齢者の方、障がい者の方を救助するのは大変なことです。日頃からそういった方たちと接することが大切ですが、特に障がい者の方とは接する機会が少ないと思われま

す。想像以上にたくさんいますし、見た目ではわからないこともあります。

特に聴覚障がい者の方は災害時、放送が聞こえず情報が入らず避難が遅れてしまいま

松川町の障がい者の人数

障がい者
(障がい者手帳を持っている方)
783人
内 聴覚障がい者
90人

(役場保健福祉課で確認した数)

日頃の接し方

高齢者の方、障がい者(耳の不自由な方)との話し方

- ・ ゆっくり話す
- ・ 人によっては口の動きを読み取る方もいます
- ・ 筆談
- ・ 書くことでやりとり
- ・ 手話
- ・ 手話でなくてもわかるようなゼスチャーでもよい
- ・ 日頃から話すことで通じ合
- ・ いも深まります。



災害時に備えて

- ・ 地区(自治会)等で防災訓練の際に話し合いなど機会を持つこと
- ・ 地域にいる高齢者、障がい者の方を把握し、災害時等救助する担当を決めておく
- ・ 実際に訪問し話を聞く

・ 災害時の救助の方法を学ぶなど高齢者から子どもまで世代をこえて地域を知りつながりを持つことが大切です。支援センターでは、そういう機会に要請があれば専門の講師をよんだり、車イスの使い方などの説明等、手配してくれます。

模擬訓練といつて足におもりをつけたり、アイマスク、ヘッドホンをつけて、自ら実際に高齢者の方や障がい者の方がおかれている立場にたってみる方法もあります。

地域のつながりが大切

近い将来、まず大きな地震が来るだろうと言われていま

す。地震以外の震災も含め日頃から地域のつながりを持ち支え合う心が大切です。この町がそうなってくると



寒さを吹き飛ばす スポーツ

松川町地区館対抗 冬季弓道大会

2月19日(日)町弓道場で、町弓友会弓士による地区館対抗冬季弓道大会が開催されました。

結果は次の通りです。

団体の部(20射)

優勝 上片桐チーム

準優勝 上大島チーム

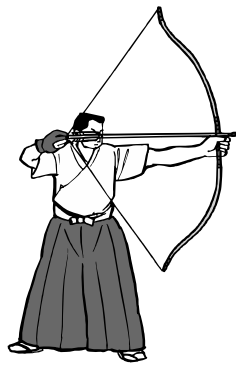
3位 上新井チーム

個人の部(40射)

優勝 齊藤 実

準優勝 竹村明浩

3位 岩村和夫



第55回田沼意次 牧之原市マラソン大会

2月5日(日)静岡県牧之原市で開催され、松川陸上クラブが参加しました。

結果は次のとおりです。
(6位まで入賞)

小学男子5-6年 2.5 km

宮内 斗輝(5年) 2位

松崎 健悟(6年) 4位

小林 大亮(5年) 6位

高田 泰彦(6年) 7位

近藤 恵哉(5年) 13位

米澤 和真(6年) 16位

小学女子5-6年 2.5 km

松澤 綾音(6年) 1位

富内 海里(6年) 4位

中学女子 5.22 km

山岸 鈴加(1年) 1位

松村 彩乃(1年) 2位

一般男子 5.22 km

原 武司 3位

田邊 正禮 10位

松尾 崇文 12位



信州大学 市民開放授業の ご案内

信州大学では、学生と一緒に受講する機会として、大学の授業を一般市民(高校生を含む)の方々に開放しています

◆開講期間

前期 平成24年4月

通年 平成24年4月

平成25年1月

◆開講場所

信州大学
全学教育機構及び各学部

◆募集定員

特に設けません。受講者数の関係で受講できない場合もあります

◆受講料

前期開講科目 9400円
(1授業科目)

◆申込方法

※一部異なる授業もあります
授業を試聴し、4月下旬まで各キャンパスの受講窓口にて申し込んでください

◆事前説明会

平成24年3月29日(木)

14時~16時

信州大学松本キャンパス
全学教育機構大会議室

◆お問い合わせ先

総合窓口

(学務課教務グループ)

TEL 0263-3712870

子どもの学習旅行 参加者募集

- 名古屋・JRリニア鉄道博物館
- 東山動物園 (どちらが選択)

- 松川町少年少女体操・スポーツ総合クラブでは、参加する子ども・保護者を募集します。
- 幼児からお年寄まで、楽しく学習できる春の1日です。

- ◎月 日：3月24日(土)(日帰り)
- ◎日 程：8時 中央公民館駐車場集合 17時解散
- ◎費用総額：世帯1人目 3,000円
2人目から 2,500円
(交通費+入館・入園料) 申込時集金
- ◎参加条件：参加者は、リニア鉄道博物館と東山動物園のどちらかを選択
東山動物園は、大人同伴に限り子ども参加可能
リニア鉄道博物館で、子どもだけの参加は原則小学3年生以上
15人乗り小型バス乗車定員まで先着順受付

申込み・お問い合わせ先

少年少女体操・スポーツ総合クラブ 川又
携 帯(昼間)：090-4460-5728
電 話(FAX自動切替え&留守録音)：36-5728
メー ル：c-yilang@rainbow.plala.or.jp



写真の魅力って何だろう

『まつかわ町の四季』フォトコンテスト ～町内入選者に聞く～

最近写真に興味を持たれる方が多いと思います。そこで「松川町の四季」フォトコンテストで入選された方の中から3人の方に写真の魅力についてお聞きしました。

最優秀賞

「里山に雲わき上がる」

北垣外 小林芳文さん

以前から気に入っていた上片桐大栢の風景でした。昨年5月、仕事でこの場所を通った際に、すばらしい雲が浮かんでいたのので急いでカメラを用意し撮影をしたそうです。

小林さんが写真に力を入れ始めたのは5・6年前から。初めは自分の思った写真が撮れず、試行錯誤しながら撮っていました。すばらしい動物写真を撮る事ができ、今は山登りの際にも写真を撮っているそうです。写真を撮っていると日常の風景の中からも再発見するものがあって楽しいと教えてくれました。

これからも、この賞に左右されずに楽しみながら趣味の一つとして続けていきたいと語ってくれました。

優秀賞

「建御柱」

北垣外 片桐久和さん

50年程前から写真を撮り続けている片桐さん。山の写真が好きで、部奈から見た駒ヶ岳が気に入って撮っているそうです。町の観光パンフレットなどにも片桐さんの作品が使われています。写真を撮る以外にも、写真教室やフォトコンテストのアドバイザーをされたりしています。

今回のフォトコンテストは

特選

「厳寒の参道」

羽場 大場章夫さん

写真を撮始めて12・3年の大場さんは、仕事の合間をみて写真を撮っています。春秋は農繁期でなかなか撮る機会は少ないそうです。

その中、昨年1月に吹雪の中で撮影に出掛けた際、大島神社の長い参道を撮りました。杉の太さは、松川町の他の神社には負けるが、並木とし

こころの詩

ほくは峠のリス

東小3年 加賀田穂

もぐもぐもぐ

がりがりがり

くるみはおいしいな

ぱくぱくぱく パリパリパリ

まつほつくりもおいしいな

あつ!

人間!

ひゃー!!

あれっ?

遠くでわらっているぞ

あつほくの友だちが来たー

おにごっこしようね

どっちがオニ?

ジャンケンポン

あつ負けちゃったー

じゃあ オニね

一、二、三、四、五、六、七、

八、九、十!

いくよー

なかなかつかまらないな

あれっ

人間がくるみをなげてくれた

わーい

おーい いっしょにくるみ食べようよー

うん いいよー

おいしいね

短歌

ランドセル

湯澤順子 (増野)

プールにて講師の後を歩行する
童に帰る僅かなひととき

一〇四年を生きたる翁の飼馬は
雨に濡れつつ棺を見送る

初競りに六千万円余の値の付きし
大間のまぐる刺身食みたし

初めての甘酒作りに挑戦す
まろき甘さは母の味に似て

贈られしランドセル背に幾度も
『いつてきます』と児が燥きおり

俳句

菅沼ますゑ (滝の沢)

絹の裾をかすめる風や薄茶席

木の葉落つ又一片も瀬戸の音

しんしんと雪降る里の宵灯り

一刻を夕日残して山眠る

群生のつつじ雨間の山を染む





まちの石仏 ⑬
「二十三夜塔」(城)
月を拝する月待信仰の供養塔



まつかわオープンガーデンの会

豊かで楽しい町になるように願って オープンガーデンの マップを作成



近年、個人の庭を開放して花や石や水を鑑賞し交流する「オープンガーデン」という活動が盛んになってきました。「花を植える、花を見る、そんな活動を通じて人とふれあ

い、地域を見直し、松川町が豊かで楽しい町になるように願って、平成22年の7月から活動がスタートしました。

くだものと温泉がそこそこ有名な松川町に來られる観光客の皆さんに、目を見て楽しんでほしいとオープンガーデンマップを作りました。

6月のブルーベリーに始まり、11月のリンゴまで、果樹園には多くの観光客が訪れます。道路沿いの果樹園に花が植えてあつたら、楽しんでくれるのでは…という考えから会が生まれ、39名(軒)で活動されています。2月25日に開かれた総会の時に取材させてもらいましたが、世間話の中にも花の話題があり、机の上にも花が飾られており、皆さんの花に対する思いが伝わってきました。

オープンガーデンと聞くと「庭を自慢しているのでは」



と思う人もいると思いますが花は見ると楽しくみだけでなく、育てる楽しみもあり、見られても減る物でもない。むしろ家族だけで楽しむのはもつたない、地域を華やかにしたいと、オープンガーデンの会の皆さんは温かい人ばかりです。

観光で來られた方だけでなく町民の皆さんも気軽に見に来てほしいそうです。鑑賞する際には、何点かルールがありますので、迷惑にならないように楽しみましょう。



草

「もう1年経つんだ…。」
TV画面を見ながら誰に言うでもなく一人つぶやいた。
3月11日が来て、あの大地震から丸1年。
そんなに月日が流れたとは思えない程あの日の衝撃は薄れずまだここにある。

今でも、毎日いく度となく被災地の状況や原発など震災関連の話題はいろんなメディアで目にするものの、すっかりそれぞれの日常に戻ったように見える。一見、関心が低くなつたように思うけど、ふと気づけば、普段の会話の端々やちよつとした行動の中に、少なからず今回の出来事を通じたその人それぞれの気づきや想いを感じる事があ

それほどたくさんの方が、泣いて、怒って、考えたと思う。現状を見ると、何をすれば…と途方にくれるばかりだが、自分が出る事は些細な事。自分が出ることを無理なく。まずは自分の半径3mから始めればよいと思う。

(久保田さち子)

公民館報
「まつかわ」
第 581 号
平成24年3月15日

発行所 松川町公民館 登
責任者 矢澤 登
編集人 公民館編集部
Tel 36-2622
e-mail: ckouminkan@matsukawa-town.jp
飯田市上郷黒田121
印刷所 龍共印刷(株)